

知られざる 衛生作業員の 世界

概要版



WaterAid



International
Labour
Organization



WORLD BANK GROUP
Water



World Health
Organization

はじめに

人間が1年に排せつする便は、世界全体で3億5,000万トン以上。これはオリンピックの水泳プール14万個がいっぱいになる量です¹。この排せつ物がたとえ1グラムでも適切に処理されなければ、私たちの健康や地球環境は大きな危険にさらされることになります。

トイレを出れば、もう排せつ物に一切接触しないで済む生活——それを支える仕事は、社会のなかで極めて重要な仕事です。ところが世界のどこを見ても、トイレの衛生作業員として働く人たちは、誰かの目に留まることもなければ感謝されることもほとんどありません。今年、「誰ひとり取り残さない」²をテーマとした世界トイレの日を迎えるにあたり、国際労働機関(ILO)、ウォーターエイド、世界銀行、世界保健機関(WHO)では、社会で最も取り残されがちな、トイレ衛生作業員たちが立たされている苦境にスポットを当てています。

ひと言で衛生作業員と言っても、きちんとした装備や福利厚生があって法律にも守られている公務員や企業の社員もいれば、貧困層に属し、社会で最も疎外され、差別を受けている人たちもいます。欠くことのできないサービスを提供しているにもかかわらず、危険で偏見を浴びるような環境、人としての尊厳や基本的人権が侵害されるような環境で働いている衛生作業員が、世界には無数にいます。開発途上国で衛生作業員の保護指針を定めている国はほとんどありません。作業員は健康や安全面で様々な問題にさらされている状態です。世界的な統計はないものの、インドだけを見ても、公式データ³によると2017年から2018年後半の間に、平均して5日に1人の衛生作業員が亡くなっています。他の情報ソース⁴によると、この数字は3倍に増え、5日に約3人が命を落としているとのこと⁵。そしてさらに数えきれない人たちが、しょっちゅう病気の感染やケガに苦しんだり、毎日この危険な仕事をする事で寿命を縮めているのです。

現在、排せつ物が安全に処理される個室トイレ——いわゆる「安全に管理された衛生設備」を利用できる人は、世界人口のわずか45%にすぎません。20億人は未だに基本的なトイレすら使うことができず、仕方なく野外排せつをしたり、ピット式トイレ、川や池に設置されたハンギングトイレ(排せつ物が川や池にそのまま流れる方式のトイレ)、複数世帯が使用する共用トイレなどを使っています⁶。

基本的なトイレを利用できる人とできない人の格差は大きく、その格差が埋まる速度はあまりにも遅いというのが現状です。排せつ物が適切に管理されているトイレを利用することは、基本的人権であるだけでなく、持続可能な開発目標(SDGs)のひとつとして、「2030年までに安全な水と持続可能なトイレをすべての人々に確保する



こと」を目指す目標6にもなっています。このSDGsについて明らかになっているデータによると、最も後れを取っているのが、この安全なトイレを確保するという目標です。このまま現在のペースで行くと、国民全員が安全なトイレを利用できるようになるまでに何百年もかかる国さえあるのです。

このとてつもなく大きな目標を達成するのであれば、世界中にもっと大勢の衛生作業員が必要になりますが、作業員の健康や生活の質が検討されることは滅多にありません。安全に管理された衛生設備と、目標6の達成に向けて衛生サービスを運用・維持する人たちが安全で尊厳ある環境で働けることは、車の両輪でなくてはなりません⁶。

ほぼ完全に放置されてきたこの問題は、これまでに発表された最も包括的なグローバル報告書のなかで、ILO、ウォーターエイド、世界銀行、WHO合同の取り組みによって浮き彫りにされています。本誌では、『The Health, Safety and Dignity of Sanitation Workers(衛生作業員の健康、安全、尊厳)』と題されたその報告書からの抜粋と、世界中の衛生作業員のストーリーをあわせて紹介し、作業員の生活と心身の健康を改善する方法を探ります。

衛生サービスが乏しいために、毎日誰かが命を落としています。排せつ物が安全ではない状態で環境に放出されていることが原因で病気になって亡くなる人もいれば、衛生作業員という仕事で危険にさらされていることが原因で亡くなる人もいます。「安全なトイレ」と言うとき、そこにはトイレを使い続けられるようにしている現場の作業員

が適切な環境で働けることも含まれていなくてはなりません。すべての人にとって安全なトイレがなければ、極度の貧困をなくすことは決してできないのです。

- **素手でピットのくみ取りを行う作業員のオリビエ・パトロさん(37歳)。**ピットから出て来たところですが、気分が悪くなって座り込んでいます(ブルキナファソ、ワガドゥグ、2019年7月)
- **汚水溜めから回収してきた汚水を認可されていない野外のゴミ捨て場に捨てるピットくみ取り作業員たち(ブルキナファソ、ワガドゥグ、2019年7月)**
- **一般家庭の台所にある下水管/排水管の詰まりを直す作業員(インド、ハイデラバード、2019年8月)**

● **ソマツバさん(52歳)は、仕事仲間と一緒に素手でピット式トイレのくみ取りを行う際に、ケガをしている足が感染しないようにビニール袋を被せています(インド、バンガロール、2019年8月)**



WaterAid/CS Sharada Prasad/Safai Karmachari



WaterAid/CS Sharada



WaterAid/Basile

2 / 知られざる衛生作業員の世界

i. 人間1人が1日に排せつする便の重さは128グラム(中央値)。1年間で1人あたり46.72キログラム(0.04672トン)になる。世界人口は75億3,000万人。オリンピックの水泳プールは1つで2,500トン相当の便または水が入る。

ii. 社会正義権限付与省の報告によると、2017年には323人、2018年1月から7月にかけては46人が死亡。577日の間に合計369人が亡くなっている。

世界のトイレの現状



世界では何十億人もの人々が、安全に管理されたトイレがないために、健康、教育、生活を脅かされています。トイレを利用する権利は、世界中のすべての人が持つ権利です。しかし、SDGsの目標6に掲げられたこの約束は、達成に向けての歩みがなかなか前に進んでいません。世界では現在、トイレのアクセスはどのような状況になっているのでしょうか⁵？

● 安全に管理された衛生設備

他の世帯との共用ではない衛生的な家庭のトイレ。排せつ物はその場所で安全に処分されるか、離れた場所に運ばれて処理されます。

これを利用している人は？ 34億人(45%)

● 基本的な衛生設備

他の世帯との共用ではない衛生的な家庭のトイレ。

これを利用している人は？ 22億人(29%)

● 限定的な衛生設備

複数の世帯で共用の衛生的なトイレ。

これを利用している人は？ 6億2,700万人(8%)

● 改善されていない衛生設備

排せつ物が人に触れないよう衛生的に分離されていないトイレ。蓋のないピットや川・池の上に設置されたトイレなど。

これを利用している人は？ 7億100万人(9%)

● 野外排せつ

鉄道の線路脇やひと目につかない場所など、野外で用を足すこと。

これを利用している人は？ 6億7,300万人(9%)



● 衛生設備が乏しいことで最も大きな影響を受けるのは、都市部の貧困層が多く、人口密度が高い地域です(ナイジェリア、ラゴス、イフェロダン、2016年9月)

● バングラデシュ、ダッカの公衆トイレを使うサムカ・アクテルさん(2018年10月)

改善に向けての進捗状況は？

2000年から2017年の間に21億人の人々が少なくとも基本的な衛生サービスを利用できるようになり、世界で野外排せつをしている人の割合は半減しました。しかし、基本的なトイレを利用できるだけでは、SDGsの目標6には届きません。目標6でターゲットにしているのは、安全に管理された衛生サービスを利用できるレベルです。現在のペースでは、サハラ以南のアフリカですべての人が安全に管理されたトイレを利用できるようになるのは2403年。なんと、予定より373年も後になってしまいますⁱⁱⁱ。SDGsの達成期限まであと10年。改善のペースを飛躍的に速めない限り、目標6の達成には10年どころか何百年もかかることとなります。

最も改善が遅れている国は⁵？

国	基本的な衛生設備を利用できない人の合計割合(%)	限定的な衛生設備を利用している人の割合(%)	改善されていない衛生設備を利用している人の割合(%)	野外排せをしている人の割合(%)
エチオピア	93%	7%	63%	22%
チャド	92%	7%	18%	67%
南スーダン	89%	8%	18%	63%
マダガスカル	89%	16%	29%	45%
バブアニューギニア	87%	2%	70%	14%
ニジェール	86%	10%	9%	68%
ベナン	84%	20%	10%	54%
トーゴ	84%	26%	10%	48%
シエラレオネ	84%	34%	33%	18%
リベリア	83%	27%	16%	40%

最も改善が進んだ国は⁵？

国	少なくとも基本的な衛生設備を利用できる人の割合(%)		年間の改善率
	2000	2017	
ミクロネシア	25%	88%	3.75
カンボジア	19%	59%	2.90
ネパール	15%	62%	2.76
ラオス人民民主共和国	28%	74%	2.72
インド*	16%	60%	2.54
カーボベルデ	40%	74%	1.99
レソト	9%	43%	1.99
インドネシア	41%	73%	1.88
ベトナム	52%	84%	1.83
モーリタニア	17%	48%	1.82

この報告書の作成中、インド政府は経営情報システム(MIS)の衛生設備に関するデータに基づき、基本的な衛生設備の導入率が農村部⁷で100%に達し、都市部⁸でもほぼ同様の状況が実現されたことを公表。

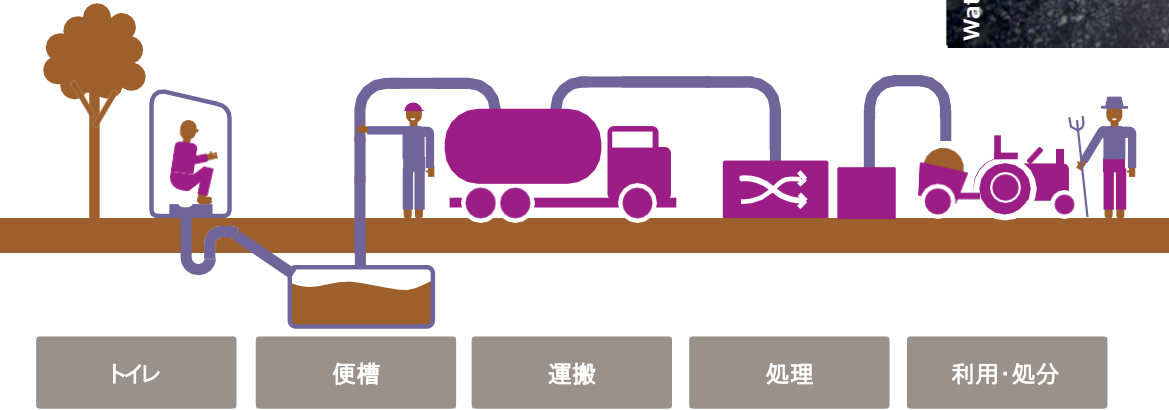
iii. この地域の2000年～2017年の年間改善率0.21に基づいて試算。

衛生管理システム

● 竹の竿を使って下水管の詰まりを直そうとしている衛生作業員のアンジャナッパさん(38歳)、ナラシンフルさん(40歳)、ガンガラッパさん(45歳) (写真左から右) (インド、バンガロール、2019年8月)

人間が排せつした便はどこへ行くのでしょうか？人が接触して病気になったり、環境に放出されて川や海が汚染されたりしないように、排せつ物はすべて適切に集めて処理されるのが理想です。ところが、裕福な先進国でさえ、排せつ物の処理が完全ではないことがあります。例えばフランスは、高所得国に分類されているにもかかわらず、現在でも人口の12%が安全に管理されたトイレを利用できていません。

ピットや腐敗槽(セプティックタンク)に頼っている地域で、衛生処理システムがしっかりと開発・管理されている場合、その処理過程は下図のようになります。



しかし実際は、世界人口の55%が安全に管理された衛生システムを利用できない状況にあります。つまり、この過程のなかで欠けている部分や機能していない部分がたくさんあるということです。

衛生処理過程	問題点
トイレ	未だにほぼ7億人が野外排せつをしています。トイレがあっても、排せつ物をそのまま野外や川に捨てたり、ピット式トイレの設計が不適切なために地下水が汚染されたり、維持管理されていない腐敗槽があふれたりする場合があります。
便槽	ピットや便槽はくみ取りをする必要がありますが、安全ではない状況でくみ取り作業が行われている場合が多く、環境が汚染されたり、作業員の生命や健康が危険にさらされています。
運搬	排せつ物の汚泥が運搬中にこぼれたり、下水が漏れる場合があります。
処理	下水も川や池、海にそのまま放出されることが多々あります。くみ取り作業員は、排せつ物の汚泥を野外や覆いのない排水溝、川や池などに捨てる以外に選択肢がない場合があります。処理施設があつたとしても、正常に稼働しているとは限らず、必ず排せつ物を効果的に処理できるわけではありません。
利用・処分	排せつ物が未処理のままだったり、処理されていても安全ではないかたちで廃棄・再利用されたり、そのまま環境に放出される場合もあります。



● 南アフリカ、クワズール・ナタール州東部のグレーターダーバン都市圏にあるイアンダ区では、家庭のピット式トイレのくみ取りを安全に行うために、作業員は樽を使っています。

● バキュームカーの中身を放出するアジュロジュ・ガニユさん(24歳)(ナイジェリア、ラゴス、2016年9月)



この衛生処理過程で働く人たちが、衛生作業員です。衛生作業員の仕事には、トイレの清掃、ピットや腐敗槽のくみ取り、下水道やマンホールの清掃、ポンプ場や処理施設での操作などがあります。開発途上国では非正規で働いている作業員が多く、法律や労働者の権利による保護もありません。衛生処理過程のどの段階でも、有害な汚物に接触するおそれがあります。本誌では、これらの段階のなかで最もよく目にする作業であり、特に危険の大きい作業でもある、くみ取りと運搬の仕事に従事している作業員に注目しています。

作業の種類

● 下水道作業: 下水道、排水管、マンホールが雨水であふれた場合やゴミなどで詰まった場合に、メンテナンスをしたり、詰まりを直したりします。高度な機械がないところでは、作業員が保護具・保護服も着用せず、実際に下水道のなかに入り、素手で排水管の詰まりを直すこともあります。これまでに多くの作業員が、下水道のなかで溺れたり、有毒ガスを吸ったりして亡くなっています⁹。

● ピット・腐敗槽のくみ取り作業: ピットや腐敗槽のくみ取りと清掃を行い、排せつ物を処理・処分する場所まで運びます。原始的な道具を使って素手で作業することもあり、作業員がピットや槽のなかに入ることも少なくありません。作業員には腐敗槽内の有毒ガスで窒息する危険があるだけでなく、ピットの壁が崩れてケガをしたり、命を落とす危険もあります。他の方法として、高度な道具や機械装置を使って作業したり、バキュームカーを使用することもできますが、それでも作業員には危険な場合があります。

● マニュアルスカベンジング: 南アジア諸国には、マニュアルスカベンジングと呼ばれる作業があります。適切な保護具を使わずに、排せつ物に直接触れるような状態で行われる作業はすべてこう呼ばれ、手作業でピットやくみ取り式トイレの清掃・くみ取りを行ったり、排せつ物を運んで捨てるといった作業があります。こうした作業を担っているのは、社会的階級が低いと考えられている人たち、宗教的マイノリティや社会的立場の弱い集団に属する人たちです。マニュアルスカベンジングは健康や安全が危険にさらされるだけでなく、安全性を欠いた労働環境や差別との関連から大きな偏見があり、深刻な人権侵害となっています。

衛生作業員の過酷な現状



衛生作業員が置かれている労働環境は、各国の衛生事情や都市状況によって大きく異なります。それでも、開発途上国で弱い立場にある衛生作業員のほとんどが経験し、健康や生命、尊厳を脅かす要素として共通しているものがあります。

甚大な健康被害

喘息、コレラ、腸チフス、肝炎、ポリオ、目や皮膚の炎症、鈍的外傷、胃腸炎⁶ —— 衛生作業員が直面する病気やケガは、数え上げるとキリがありません。作業員は排せつ物に直接触れたり、危険な閉鎖空間で作業をすることが多々あります。腐敗槽や下水道内では、アンモニア、一酸化炭素、二酸化硫黄¹⁰などの有毒ガスによって、意識を失ったり命を落とすこともあります。明らかに危険な仕事であるにもかかわらず、保護具や安全装備のようなものをまったく使っていないことも珍しくありません。そのため、カミソリ、注射器、ガラスの破片といった鋭利な物でケガをしたり、病気に感染することもあります。仕事の過酷な現実から逃れたいがために、アルコールやドラッグに影響された状態で仕事に行く作業員も多く、そうした場合はさらに事故の危険が大きくなります。



WaterAid/Basile

● 注射器を持つ手。オリビエ・パトロさんは素手でくみ取り作業を行っているときに、ある家庭のピット式トイレのなかでこの注射器を見つけました（ブルキナファソ、ワガドゥグ、2019年7月）

●● 樽、シャベル、つるはし…こういう道具は長くは使えません。排せつ物の汚泥で腐り、すぐに傷んでしまいます。ゴムや鉄でできていても汚泥で傷んでしまうのですから、ピットに入ってくみ取り作業をする人間の体は、いったいどうなるのでしょうか？ ●●

イヌッサ・ウエドラオゴさん — 素手でくみ取りを行う作業員（ブルキナファソ、ワガドゥグ）

低く不安定な収入

このような社会に欠かせない仕事をして衛生作業員が得られる賃金の額は、状況によって大きく異なります。最も極端な例としては、この仕事を素手でやっているインドの作業員の場合、金銭ではなく食べ物で支払われていることも多くあります。セネガルやハイチでは、一般家庭で作業をすべて終わらせた後、まったく賃金が払われなかった事例も報告されています。開発途上国で行われている衛生作業は非正規の仕事として扱われる面が多々あるため、作業員は定収入を得ることができず、さらに格差が広がることになります。

偏見と差別

社会的身分の低い衛生作業員は、世代を超えて家族全員が貧困のサイクルから抜け出せなくなっていることもあります。衛生作業は社会的に恥ずかしい仕事と考えられている国もあり、作業員がコミュニティの人たちに自分の仕事を知られないように、働くのは夜になってからというケースも少なくありません。インドやバングラデシュでは、マニュアルスカベンジングはカースト制度の最下層の人たちの仕事とされており、作業員は差別されて、自分だけでなく子供たちまでこの仕事から抜け出す機会がほとんど、あるいはまったくありません。



WaterAid/Sudharak

● ヴァールミーキの女性グループ。ヴァールミーキは指定カースト（「ダリット」）のサブカーストであり、素手で清掃する仕事を親子間で結婚によって世襲しなくてはなりません（インド、マディヤプラデシュ州、アマンガンジ、2018年12月）

●● 今でも昔のままのやり方で作業をしています。働いた分は、このトクラ（かご）に米か何かの穀物を1キロ入れてもらいます。時々はお金をもらうこともあります ●●

アシャデビ・ラワットさん — 腐敗槽清掃作業員（インド、ラジプールブロック、サングラプ村）

不十分な権利保護

衛生作業員に関する政策や法律・規則が存在しない場合も多くあります。存在していたとしても、限られた職種の衛生作業員しか対象になっていなかったり、必要な資金や施行の仕組みがないなど、効力が低い傾向があります。最も危険な仕事を非正規の仕事として扱う国が多いなか、インドやセネガルのように、素手でのくみ取りを禁止する法律が可決された国もありますが、実際はそのためになんかした仕事が闇市場に流れ、かえって問題を悪化させて、衛生作業員に対する保護がさらに手薄になってしまっています。

●● 自分がやるべき仕事をしなさい、と言われる。それはつまり、汚泥を掃除しろということです ●●

マンジュ・ヴァールミーキさん — マニュアルスカベンジャー（インド、マディヤプラデシュ州、アマンガンジ）

各国レポート

インド

人口13億人を抱えるインドは、国民のために清潔な水と安全な衛生サービスを提供・維持するうえで、様々な問題が山積しています。清潔な水と適切なトイレのアクセスについては大きな改善が見られるものの、安全な衛生サービスのアクセスに関してはまだ後れをとっています⁵。

複数の情報ソースによると、インドにはおよそ500万人の衛生作業員(トイレ清掃作業員を含む)がおり、うち200万人は危険の大きい環境で働いているとされています¹¹。マニュアルスカベンジングの仕事を割り当てられているのは、最も立場が弱く偏見の対象となっている人たちで、そのほとんどがインドのカースト制度で「ダリット」と呼ばれる最下層階級に属しています。この仕事は世代を超えて世襲されることが多く、そのサイクルから抜け出せる機会はほとんどありません。

マニュアルスカベンジングは1993年に政府が法律で禁止し、2013年には法律が強化されたにもかかわらず、2018年の時点でこの仕事に従事している人は明らかに増加しているだけでも2万人以上¹²、実際の人数はもっと多いとも言われています。

こうした作業員のなかで女性や少女に多いのが、「バケツ」を利



WaterAid/Sudharak

利したトイレを手作業で清掃したり、排せつ物をバケツで運んで捨てる行ったりする仕事。野外排せつに使われる線路脇などの場所を原始的な道具で掃除する仕事をしている人たちもいます。

マニュアルスカベンジングは多くの場合、処理されていない排せつ物を作業員が素手や簡単な道具だけで扱ったり、廃棄や清掃を行うなど、危険な作業がつきまといまふ。排せつ物のなかにどつぱり浸かって作業をすることもよくあり、腐敗槽の清掃中や下水の詰まりを直している最中に命を落とす人までいます。公式データ³によると、インドでは2017年から2018年後半の間に、平均して5日に1人の衛生作業員が亡くなっています。他の情報ソース⁴では

この数字は3倍に増え、5日に約3人が命を落としているとのことです。

こうした作業をしているのは、正規に認められた作業員ではない人たちがほとんどです。つまり、福利厚生もなければ社会的な保障もありません。賃金は極めて低く、しょっちゅう搾取されるリスクにさらされています。なかには金銭の代わりに残飯を与えられる人さえいます。作業員たちの前には、社会にまん延する構造的差別が立ちまだかっています。人権が侵害され、他の仕事に移れる可能性は皆無に等しい状況です。

下水道やピット、腐敗槽、処理施設の運営に関しては、正式な衛生作業員としてきちんと雇用されている人たちがおり、基本的な労



WaterAid/Sudharak

● くみ取り式トイレから排せつ物を取り除くミーナデヴィさん(58歳)。作業に使用するのは原始的な道具のみ(インド、ビハール州、デーハリ・オン・ソン、2018年12月)

ミーナデヴィさんは58歳。くみ取り式トイレの清掃の仕事をしています。義母もくみ取り式トイレの清掃をしていましたが、仕事の中に亡くなりました。

●● 最初は嫌でたまりませんでした。偏見のつきまとう仕事ですから、恥ずかしくて、やりたくなかったんです。でも、今では悪臭にも慣れてしまいました。貧しい者には選択肢がありません。それが差別だとして、他に何をして空腹を満たせばよいのでしょうか？ 他の仕事をもらえるなら、この仕事は今すぐにも辞めます ●●

働条件は法律で保障されています。その一方で、人がやりたがらない危険な仕事は、そうした保障のない一時雇いの非正規作業員に委託されるケースが多々あります¹³。そうしたなかで、マニュアルスカベンジングも保護具を持たない作業員によって当たり前のように行われているのです。

衛生作業員の権利についてはアドボカシー活動が進み、しかるべき解決策についてもかなり特定されてきました。国内外で多くの機関・団体が、引き続き認識の拡大と衛生作業員の権利向上を図っています。

インドは1993年に「**Employment of Manual Scavenging and Construction of Dry Latrines (Prohibition) Act**(マニュアルスカベンジャーの雇用およびくみ取り式トイレの建設(の禁止)に関する法律)」で、マニュアルスカベンジングを禁止しました。2013年には「**Prohibition of Employment as Manual Scavengers and their Rehabilitation Act(PEMSR)**(マニュアルスカベンジャーの雇用禁止および権利回復に関する法律)」で改めてマニュアルスカベンジングを禁止し、この仕事に従事する人たちの権利回復を目指しました。翌年、インド最高裁判所はマニュアルスカベンジングが人権に対する世界的取り組みに違反すると裁定。インド政府は最近になって排せつ物との直接的な接触をなくすための行動計画を作成しましたが、マニュアルスカベンジングが完全になくなるまで、まだ道のりが遠いことは明らかです。

各国レポート

タンザニア



WaterAid/James



WaterAid/James

ジュマ・ンゴンボさんは2003年からダルエスサラームで衛生作業員として働いています。ジュマさんが操作しているのは、住宅の建て込んだ街中でトイレのくみ取りに使われる「ガルパー」という機械です。

●●ガルパーのおかげで、ずいぶんと仕事が助かっています。大きなバキュームカーが通れないような道でも、隅々の家にまで運んでいくことができます。排せつ物を汲み取る際には、手袋、長靴、マスクを着けて、消毒剤を使っています。この仕事をしている伯父がいたので、自分も同じ仕事を選び、できるようになるまで教わりました。この仕事に就いたことで、明らかに以前よりも良い生活ができるようになりました ●●

タンザニア最大の都市ダルエスサラームは、この数十年で空前の成長を遂げました。人口の流入に伴って無計画な居住エリアがいたるところに出現し、こうした地域は多くの場合、適切ではない水・衛生サービスに頼っています。

このような地域はほとんどがピット式トイレを使用していますが、道が狭すぎてバキュームカーが通れないところが多いため、手作業でピット式トイレのくみ取りを行って排せつ物を川に流すか、「フロッグマン」と呼ばれる人たちがその作業を有料で請け負っています。

フロッグマンの仕事には危険がつきまといます。ピットのくみ取りを安全かつ衛生的に行うには適切な装備が必要ですが、フロッグマンにはそのような装備がありません。代わりにバケツを使い、保護服も着ずに作業するため、病気にかかることが多くなってしまうます。フロッグマンのなかには仕事に亡くなった人たちもあり、大雨でピットが崩れたことが原因となったケースも少なくありません。

そんななか、タンザニアでは一部のコミュニティで、排せつ物からビジネスを生む計画が動き始めています。既に排せつ物汚泥管理施設が建設され、ここで排せつ物をリサイクルして生産された炭やバイオガスが販売されることとなります。くみ取りサービスについてはコミュニティの人たちが分割で料金を支払いますが、貧困層の人たちは無料でサービスを受けることができます。この仕組みによって、すべての人がこのサービスを利用できるようになり、衛生作業員は適切な装備を整え、安全な環境で働けるようになります¹⁴。

● 排せつ物汚泥の処分場にて、ジュマ・ンゴンボさん(52歳)が手にしているのは、排せつ物汚泥の処理を認められていることを証明するスタンプ(タンザニア、ダルエスサラーム、テメケ、2019年6月)

● ピット式トイレにガルパーの機械を差し込むジュマ・ハミシさん(29歳、左)とジュマ・ンゴンボさん(52歳、右)(タンザニア、ダルエスサラーム、テメケ、2019年6月)



WaterAid/Basilie Quedraogo



WaterAid/Basilie

各国レポート

ブルキナファソ

西アフリカの内陸国ブルキナファソは、人口わずか2,000万人余り。ブルキナファソ政府によると、その人口のうち22.6%しか基本的な衛生設備を利用できていません¹⁵。清潔な水と適切なトイレのユニバーサルアクセスに向けて、なかなか改善が進んでいない状況です。

衛生作業員のほとんどが正式な訓練を受けておらず、日常的に排せつ物との接触がある作業に従事しています。素手でくみ取りを行う作業員がピットや腐敗槽のくみ取りに使っているのは、バケツ、ロープ、シャベルなど。保護具もほとんど、あるいはまったくありません。汲み取った排せつ物を、そのまま野外や覆いのない排水溝に捨てている場合もあります¹⁶。

こうした作業員たちには社会から疎外されている人たちが多く、仕事をする際には劣悪な作業環境から目を背けるために、ドラッグや伝統的な薬、アルコールなどを摂取しているとのことです。

● トイレのくみ取り作業を終えた後、その家の庭の外で束の間の休憩をとるウェンドグンディ・サワドゴさん(45歳)と仕事仲間のタンガ・ゾンゴさん(44歳、左)、ヤデガ・サワドゴさん(41歳、右)(ブルキナファソ、ワガドゥグ、2019年7月)

● 手作業でくみ取りを行うために、ロープを使ってピット式トイレの中に降りるウェンドグンディ・サワドゴさん(45歳)(ブルキナファソ、ワガドゥグ、2019年7月)

● 素手でくみ取りを行う作業員のウェンドグンディ・サワドゴさん(45歳)。汚水溜めを空にした後、庭の外で体を洗います(ブルキナファソ、ワガドゥグ、2019年7月)

ウェンドグンディ・サワドゴさんはブルキナファソの首都ワガドゥグで15年間、手作業でトイレのくみ取りを行う作業員として働いています。くみ取りの仕事は、地域の一般家庭から直接依頼を受けて行います。

●●これが自分の仕事だと証明するような書類は何もありません。死ぬときは、ただ死ぬだけです。バケツと鍬を持って仕事に行くだけで、誰かに認められることもなければ、どこかに痕跡を残すこともなく、自分がそういう仕事をしたという成果がわかるような書類もありません。そう考えると悲しくなります。自分の子供たちには同じ仕事に就いてほしくないと思っています ●●



WaterAid/Basilie

各国レポート

Bangladesh

Bangladeshは世界のなかでも極めて人口密度の高い国。2000年以降、野外排せつをなくすという点では飛躍的に改善が進んでいるものの、基本的な衛生設備を利用できる人口はまだ48%しかいません⁵。

衛生作業員として働いている人には、正式な公務員と非正規労働者の両方がいます。公務員の仕事は比較的安定しており、最低限の収入と福利厚生が保障されている一方で、非正規の作業員は様々な困難に直面しています。非正規の「スーパー（清掃人）」やくみ取り作業員は、多くの場合、道具や保護具を使わずに仕事をしています。排せつ物に直接接触するのも当たり前になっており、人目を避けて夜に働いている場合も多々あります。偏見や差別の対象となっているスーパーの人たちが暮らしているのは、他の地域から隔離された「スーパーコロニー」。非衛生的でスラムのようなエリアに多くの人々が貧困と過密の状態で暮らしています。また、正式な公務員の「スーパー」でさえ、仕事中に保護具を着けず、同じ作業を行っていることも少なくありません。

21歳のときから腐敗槽のくみ取り作業員として働いてきたウタムさん。作業員のことを認めず、権利を与えようとしない当局に不満を感じています¹⁷。

自分の権利が欲しい、と良い環境で暮らしたいと思っています。それ以外に、いったいどうすれば今の状況を良くすることができるのでしょうか？どうすれば娘に自分より良い暮らしをさせてやれるのでしょうか？私たちに目を向けたり、私たちのことを考えたりしてくれる人は誰もいません。大金が欲しいと言っているわけではありません。ただ、必要最低限のもの、ささやかな尊厳を望んでいるだけです 



SNV/Drik/Tushikur

● 腐敗槽のくみ取り作業員、ウタム・クマールさん（ Bangladesh、クルナ）



WaterAid/Basile



● 一般家庭のトイレでくみ取り作業をするイヌサ・ウエドラオゴさん（48歳）（ブルキナファソ、ワガドゥグ、2019年7月）

改善のために できることは？

● 手作業で下水管の詰まりを直す仕事をしているガンガラッパさん(52歳)
(インド、バンガロール、2019年8月)

● 自治体職員のセンジ・ドウマクデさん(32歳)は、柔軟性のある棒を使って、下水本流に流れ込むパイプの詰まりを直すのが仕事です(南アフリカ、グレーターダーバン都市圏、2019年3月)

● モーター式ガルパーを積んだトラックの前に立つ衛生作業員のジュリウス・チセンゴさん(49歳)
(タンザニア、ダルエスサラーム、キガンボニ・ウマワ地区、2019年6月)

● カベラッパさん(54歳)(インド、バンガロール、2019年8月)

● 素手でくみ取りを行う作業員のウェンドゲンディ・サワドゴさん(45歳)
(ブルキナファソ、ワガドゥグ、2019年7月)



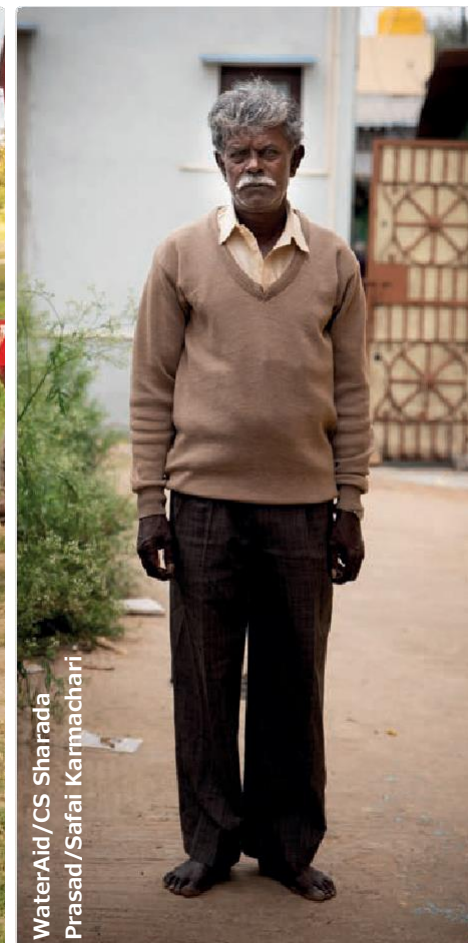
WaterAid/CS Sharada Prasad/
Safai karmachari Kavalu



WaterAid/Nyani



WaterAid/James



WaterAid/CS Sharada
Prasad/Safai Karmachari



WaterAid/Basile

安全なトイレを利用すること。適切な環境で働くこと。これは人間が持つ権利です¹⁸。

衛生作業員が提供しているのは命にかかわる公共サービスであり、国の健康と発展に欠くことのできないものです。世界中のすべての人々が適切なトイレを利用できるようになるまで、世界から貧困がなくなることはありません。ただし、そのための歩みは、この必要不可欠なサービスを提供するために働いている人たちの命、健康、尊厳を守ることと並行して進めていかなくてはなりません。

衛生作業員が直面する問題の多くは、社会のなかで見えない存在になってしまっていることから生じています。偏見を受け、疎外され、作業員たちの声は権力のある人たちから無視されているのです。

衛生作業員の生活を改善するには、社会の様々な部分で次のような措置を講じる必要があります。

● **政府**が衛生作業員の仕事を認める法律を整備し、関連する国際労働基準を国内でも承認すること。

● **政府**がマニュアルスカベンジングに終止符を打ち、その立場に置かれてきた人たち、特に女性の権利を回復し、他に生計を立てる方法を提供すること。

● **政府**が作業員に適切な労働環境と社会保障を提供し、規則を施行することで、衛生作業を正規の仕事と認めること。

● **政府と人権団体**が衛生作業員による組合・協会などの組織づくりと権利の実現を支援すること。

● **開発援助機関と支援者**があらゆる都市衛生計画に衛生作業員の権利と福祉を確実に組み込むこと。

● **コミュニティと一般市民**が、衛生作業員の仕事は誰もがその恩恵を受けている極めて重要なものであることを認識し、作業員の困難との闘いを支援すること。

政策に求められることについて詳しくは、報告書(全文版、英文)をご覧ください。
washmatters.wateraid.org/health-safety-dignity-sanitation-workers

格差をなくす

この必要不可欠な公共サービスを提供している人々の仕事と労働環境については、知られていることがあまりにも少なすぎます。最も弱い立場に立たされている衛生作業員たち —— 最も社会的地位の低い仕事をしている人たちは、非正規で働いていたり、偏見を恐れて気付かれるのを嫌がったりすることが多いため、世界中でこの仕事に就いている人の人数を割り出すことは不可能です。

また、世界中で何人の衛生作業員が命を落としたかも分かっておらず、推定人数として出されている数字は実際よりかなり少なく見積もられている可能性が大きい。そのため、多くの作業員が直面している絶望的な状況がさらに見えにくくなっています。精度の高いエビデンスと

データがないために、衛生作業員の生活改善に向けて断固たる措置を講じるよう政府を説得することが難しくなっています。このエビデンスを積み重ね、明らかにしたことに基づいて措置を講じるために、研究者、政府、開発援助機関にはすべて、それぞれ果たすべき役割があります。

トイレの話をつぶし視しない

排せつという行為は、ひとり残らずすべての人間にとって、生活のなかで当たり前の行為です。ところがトイレについて —— トイレの底に消えていったものが何なのか、その後どこへ行くのかについては、日常生活で普通に話をするこも、政治で論議されることもありません。トイレについてオープンに話し合うことができないとしたら、変化を起こすことが難しくなってしまいます。政治家に施策を強化させたり、排せつ物処理問題の調査を拡大することもできなければ、衛生作業員が労働上の権利を獲得したり、社会にもっと受け入れられるよう求めることもできないのです。

Appendix: Global access to sanitation services⁵

Country	% of population with at least basic sanitation	% of population with limited sanitation	% of population with unimproved sanitation	% of population practising open defecation
Afghanistan	43	10	34	13
Albania	98	2	<1	<1
Algeria	88	8	3	<1
American Samoa	54	45	<1	<1
Andorra	>99	<1	<1	<1
Angola	50	20	10	20
Anguilla	97	2	<1	<1
Antigua and Barbuda	88	4	8	<1
Argentina	-	-	-	-
Armenia	94	<1	6	<1
Aruba	-	-	-	-
Australia	>99	<1	<1	<1
Austria	>99	<1	<1	<1
Azerbaijan	93	3	5	<1
Bahamas	95	3	2	<1
Bahrain	>99	<1	<1	<1
Bangladesh	48	23	29	<1
Barbados	97	2	<1	<1
Belarus	98	2	<1	<1
Belgium	>99	<1	<1	<1
Belize	88	9	2	<1
Benin	16	20	10	54
Bermuda	>99	<1	<1	<1
Bhutan	69	9	22	<1
Bolivia (Plurinational State of)	61	17	9	13
Bosnia and Herzegovina	95	<1	4	<1
Botswana	77	6	6	11

Country	% of population with at least basic sanitation	% of population with limited sanitation	% of population with unimproved sanitation	% of population practising open defecation
Brazil	88	<1	10	1
British Virgin Islands	-	-	-	-
Brunei Darussalam	-	-	-	-
Bulgaria	86	14	<1	<1
Burkina Faso	19	27	6	47
Burundi	46	12	40	3
Cabo Verde	74	6	<1	20
Cambodia	59	6	3	32
Cameroon	39	19	35	7
Canada	>99	<1	<1	<1
Caribbean Netherlands	-	-	-	-
Cayman Islands	-	-	-	-
Central African Republic	-	-	-	-
Chad	8	7	18	67
Channel Islands	99	<1	2	<1
Chile	>99	<1	<1	<1
China	85	6	9	<1
China, Hong Kong Special Administrative Region	96	<1	4	<1
China, Macao Special Administrative Region	-	-	-	-
Colombia	90	5	2	3
Comoros	36	13	50	<1
Congo	20	34	37	9
Cook Islands	98	<1	2	-

Country	% of population with at least basic sanitation	% of population with limited sanitation	% of population with unimproved sanitation	% of population practising open defecation
Costa Rica	98	<1	1	<1
Côte d'Ivoire	32	22	20	26
Croatia	97	2	<1	-
Cuba	93	3	4	<1
Curaçao	99	<1	<1	<1
Cyprus	>99	<1	<1	<1
Czech Republic	>99	<1	<1	<1
Democratic People's Republic of Korea	83	1	16	<1
Democratic Republic of the Congo	20	20	47	12
Denmark	>99	<1	<1	<1
Djibouti	64	6	13	17
Dominica	-	-	-	-
Dominican Republic	84	11	2	3
Ecuador	88	9	<1	2
Egypt	94	4	1	<1
El Salvador	87	11	<1	1
Equatorial Guinea	66	10	21	3
Eritrea	-	-	-	-
Estonia	>99	<1	<1	<1
Eswatini	58	27	8	7
Ethiopia	7	7	63	22
Falkland Islands (Malvinas)	>99	<1	<1	<1
Faroe Islands	-	-	-	-
Fiji	95	5	<1	<1
Finland	>99	<1	<1	<1
France	99	1	<1	<1
French Guiana	92	<1	8	<1
French Polynesia	97	<1	3	-
Gabon	47	27	22	3

Country	% of population with at least basic sanitation	% of population with limited sanitation	% of population with unimproved sanitation	% of population practising open defecation
Gambia	39	27	33	1
Georgia	90	1	9	<1
Germany	>99	<1	<1	<1
Ghana	18	50	13	18
Gibraltar	>99	<1	<1	<1
Greece	99	1	<1	<1
Greenland	>99	<1	<1	<1
Grenada	91	2	3	4
Guadeloupe	>99	<1	<1	<1
Guam	-	-	-	-
Guatemala	65	12	19	5
Guinea	23	30	33	14
Guinea-Bissau	21	16	47	17
Guyana	86	10	3	<1
Haiti	35	27	18	20
Holy See	-	-	-	-
Honduras	81	9	4	6
Hungary	98	2	<1	<1
Iceland	99	1	<1	<1
India*	60	13	2	26
Indonesia	73	12	5	10
Iran (Islamic Republic of)	88	10	2	-
Iraq	94	1	5	<1
Ireland	91	7	2	<1
Isle of Man	-	-	-	-
Israel	>99	<1	<1	<1
Italy	99	<1	1	<1
Jamaica	87	12	<1	<1
Japan	>99	<1	<1	<1
Jordan	97	1	1	<1
Kazakhstan	98	2	<1	<1
Kenya	29	22	38	10
Kiribati	48	13	10	28
Kuwait	>99	<1	<1	<1

* While this report was being prepared, the Government of India's Management Information System (MIS) data on sanitation declares a 100% achievement of basic sanitation coverage in rural⁷ areas and a similar situation in urban⁸ areas.

Country	% of population with at least basic sanitation	% of population with limited sanitation	% of population with unimproved sanitation	% of population practising open defecation
Kyrgyzstan	97	3	<1	<1
Lao People's Democratic Republic	74	3	2	21
Latvia	92	2	6	<1
Lebanon	98	1	<1	<1
Lesotho	43	20	10	27
Liberia	17	27	16	40
Libya	>99	<1	<1	<1
Liechtenstein	>99	<1	<1	<1
Lithuania	93	2	5	<1
Luxembourg	98	2	<1	<1
Madagascar	11	16	29	45
Malawi	26	13	55	6
Malaysia	>99	<1	<1	-
Maldives	>99	<1	<1	<1
Mali	39	15	39	7
Malta	>99	<1	<1	<1
Marshall Islands	83	6	<1	10
Martinique	>99	<1	<1	<1
Mauritania	48	8	12	32
Mauritius	96	4	<1	<1
Mayotte	-	-	-	-
Mexico	91	7	1	<1
Micronesia (Federated States of)	88	<1	12	-
Monaco	>99	<1	<1	<1
Mongolia	58	28	3	10
Montenegro	98	<1	2	<1
Montserrat	-	-	-	-
Morocco	89	4	<1	7
Mozambique	29	5	39	27
Myanmar	64	9	17	9
Namibia	35	12	4	49
Nauru	66	31	1	3

Country	% of population with at least basic sanitation	% of population with limited sanitation	% of population with unimproved sanitation	% of population practising open defecation
Nepal	62	14	3	21
Netherlands	98	2	<1	<1
New Caledonia	>99	<1	<1	<1
New Zealand	>99	<1	<1	<1
Nicaragua	74	6	13	7
Niger	14	10	9	68
Nigeria	39	21	21	20
Niue	97	<1	3	<1
North Macedonia	>99	<1	<1	<1
Northern Mariana Islands	79	19	2	<1
Norway	98	2	<1	<1
Oman	>99	<1	<1	<1
Pakistan	60	10	20	10
Palau	>99	<1	<1	<1
Panama	83	6	6	4
Papua New Guinea	13	2	70	14
Paraguay	90	3	6	<1
Peru	74	11	8	7
Philippines	77	15	3	5
Poland	99	1	<1	<1
Portugal	>99	<1	<1	<1
Puerto Rico	97	<1	3	<1
Qatar	>99	<1	<1	<1
Republic of Korea	>99	<1	<1	<1
Republic of Moldova	76	11	13	<1
Réunion	>99	<1	<1	<1
Romania	84	<1	15	<1
Russian Federation	90	<1	10	<1
Rwanda	67	14	17	2
Saint Helena	>99	<1	<1	<1

Country	% of population with at least basic sanitation	% of population with limited sanitation	% of population with unimproved sanitation	% of population practising open defecation
Saint Kitts and Nevis	-	-	-	-
Saint Lucia	88	11	<1	<1
Saint Pierre and Miquelon	-	-	-	-
Saint Vincent and the Grenadines	87	3	6	3
Samoa	98	<1	2	<1
San Marino	>99	<1	<1	<1
Sao Tome and Principe	43	6	4	47
Saudi Arabia	>99	<1	<1	<1
Senegal	51	17	18	14
Serbia	98	<1	2	<1
Seychelles	>99	<1	<1	<1
Sierra Leone	16	34	33	18
Singapore	>99	<1	<1	<1
Sint Maarten (Dutch part)	99	<1	1	<1
Slovakia	98	2	<1	<1
Slovenia	>99	<1	<1	<1
Solomon Islands	34	6	7	54
Somalia	38	15	19	28
South Africa	76	15	8	1
South Sudan	11	8	18	63
Spain	>99	<1	<1	<1
Sri Lanka	96	3	<1	<1
Sudan	37	8	31	24
Suriname	84	11	2	3
Sweden	>99	<1	<1	<1
Switzerland	>99	<1	<1	<1
Syrian Arab Republic	91	8	<1	-
Tajikistan	97	2	<1	<1
Thailand	99	1	<1	<1
Timor-Leste	54	9	18	20

Country	% of population with at least basic sanitation	% of population with limited sanitation	% of population with unimproved sanitation	% of population practising open defecation
Togo	16	26	10	48
Tokelau	97	3	<1	<1
Tonga	93	1	6	<1
Trinidad and Tobago	93	6	<1	<1
Tunisia	91	5	4	<1
Turkey	97	<1	2	<1
Turkmenistan	99	1	<1	<1
Turks and Caicos Islands	88	<1	10	2
Tuvalu	84	7	1	7
Uganda	18	18	58	6
Ukraine	96	2	2	<1
United Arab Emirates	99	<1	<1	<1
United Kingdom	>99	<1	<1	<1
United Republic of Tanzania	30	17	41	12
United States Virgin Islands	>99	<1	<1	<1
United States of America	>99	<1	<1	<1
Uruguay	97	2	<1	<1
Uzbekistan	>99	<1	<1	<1
Vanuatu	34	35	31	<1
Venezuela (Bolivarian Republic of)	94	<1	3	3
Vietnam	84	4	10	3
Wallis and Futuna Islands	>99	<1	<1	<1t
West Bank and Gaza Strip	97	3	<1	<1
Western Sahara	-	-	-	-
Yemen	59	5	16	20
Zambia	26	18	37	19
Zimbabwe	36	28	11	25

References

1 **Cartmell et al (2015).** *The Characterization of Feces and Urine: A Review of the Literature to Inform Advanced Treatment Technology.* **Crit Rev Environ Technol.** Available at: ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC4500995/ (accessed 24 Jul 2019).

2 **UNWater(2019).** *World Toilet Day 2019 – “Toilets for all” means leaving no one behind.* Available at: worldtoiletday.info/ (accessed 12 Sep 2019).

3 **The Indian Express (2018).** *One manual scavenging death every five days: Official data.* Available at: indianexpress.com/article/india/official-data-shows-one-manual-scavenging-death-every-five-days-5361531/ (accessed 24 Jul 2019).

4 **International Dalit Solidarity Network (2018).** *Justice Denied: Death of workers engaged in manual scavenging while cleaning septic tank or sewer.* Available at: idsn.org/wp-content/uploads/2018/12/Report-Justice-Denied-Death-of-workers-engaged-in-manual-scavenging-while-cleaning-the-Septic-tank-or-Sewer2.pdf (accessed 5 Aug 2019).

5 **WHO/UNICEF Joint Monitoring Programme (2019).** *Progress on household drinking water, sanitation and hygiene, 2000-2017. p.8.* New York: UNICEF/WHO. Available at: washdata.org/reports (accessed 24 Jul 2019).

6 **WHO (2018).** *Guidelines on Sanitation and Health.* Available at: [who.int/water_sanitation_health/publications/guidelines-on-sanitation-and-health/en/](https://www.who.int/water_sanitation_health/publications/guidelines-on-sanitation-and-health/en/) (accessed 8 Aug 2019).

7 **Department of Drinking Water and Sanitation, Ministry of Jal Shakti, Government of India (2019).** *Household toilet coverage across India (rural).* Available at: sbm.gov.in/sbmdashboard/IHHL.aspx. (accessed 9 Oct 2019).

8 **Ministry of Housing and Urban Affairs, Government of India (2019).** *Swachh Bharat Urban.* Available at: <http://swachhbharaturban.gov.in/dashboard/> (accessed 9 Oct 2019).

9 **India Today (2019).** *7 suffocated to death while cleaning hotel sewer in Gujarat’s Vadodara.* indiatoday.in/india/story/7-suffocated-to-deathwhile-cleaning-hotel-sewer-in-gujarat-s-vadodara-1549381-2019-06-15 (accessed 5 Aug 2019).

10 **Wisconsin Department of Health (2017).** *Sewer Gas.* Available at: dhs.wisconsin.gov/air/sewergas.htm (accessed 5 Aug 2019).

11 **Dalberg Advisors (2017).** *Sanitation worker safety and livelihoods in India: a blueprint for action. Phase I: understanding the problem.* Available at: sanitationworkers.org/wp-content/uploads/2018/04/Phase-1-Understanding-the-Problem-Part-I.pdf (accessed 6 Aug 2019).

12 **Business Standard (2018).** *Over 20,500 manual scavengers identified in India: Govt survey.* Available at: business-standard.com/article/pti-stories/over-20-500-manual-scavengers-identified-in-india-govt-survey-118100200781_1.html (accessed 5 Aug 2019).

13 **ILO, WaterAid, World Bank and WHO (2019).** *Health, Safety and Dignity of Sanitation Workers.* Available at: washmatters.wateraid.org/health-safety-dignity-sanitation-workers (accessed 31 Jul 2019).

14 **WaterAid (2019).** *Turning waste into wealth in Tanzania.* Available at: washmatters.wateraid.org/blog/turning-waste-into-wealth-in-tanzania (accessed 31 Jul 2019).

15 **Ministere de l’eau et de l’assainissement, Burkina Faso (2019).** *Programme National d’assainissement des eaux usees et excreta.* Available at: eaurkina.org/images/Assainissement/DOSSIER_2018/RAPPORT_BILAN2018/BILAN_NATIONAL_PNAEUE_2018_DEF_14_05_2019.pdf (accessed 31 Jul 2019).

16 **WaterAid (2018).** *Les Vidangeurs Manuels: Quels rôles dans l’Assainissement des quartiers périphériques et non lotis de Ouagadougou?* Available at: eaurkina.org/images/Assainissement/DOSSIER_2018/RAPPORT_BILAN2018/BILAN_NATIONAL_PNAEUE_2018_DEF_14_05_2019.pdf (accessed 19 Aug 2019).

17 **SNV Netherlands Development Organisation. (2019).** *City Cleaners. Stories of those left behind.* Available at: snv.org/public/cms/sites/default/files/explore/download/english_book_design_v3.pdf. (accessed 5 Aug 2019).

18 **International Labour Organization (2013).** *ILO Statement to the Third Committee of the 68th General Assembly.* New York. Available at: ilo.org/newyork/speeches-and-statements/WCMS_229015/lang-en/index.htm (accessed 19 Aug 2019).



● Employees of the eThekweni Municipality sewage jetting crew sanitising the street after clearing a blockage in the city of Durban. The team uses a hydrojet - a high pressure hose equipped with a special nozzle - to clear blockages from sewer lines in the municipality. South Africa. March 2019.

WaterAid/Nyani Quarmyne/Panos

About this briefing

This briefing was created using research from a report on the health, safety and dignity of sanitation workers that was commissioned by the the ILO, WaterAid, World Bank and the WHO. The report examined case studies of sanitation workers in nine countries: Bangladesh, Bolivia, Burkina Faso, Haiti, India, Kenya, Senegal, South Africa and Uganda. The report can be viewed at: washmatters.wateraid.org/health-safety-dignity-sanitation-workers

Written by Emily Pritchard with support from Fiona Callister, Andrés Hueso, Lisa Martin, Laura Summerton, Ella Lines, WaterAid India, WaterAid Bangladesh, WaterAid Burkina Faso, WaterAid Tanzania, the International Labour Organization, the World Bank and the World Health Organization.

November 2019

wateraid.org
ilo.org
worldbank.org
who.int

#SanitationWorkers #WorldToiletDay

Front cover images:

● Muniraju, 37, showing his hands covered in soil and faeces as he manually empties a pit latrine. Bangalore, India, August 2019.

● Muniraju, 37, helps Kaverappa, 54, out of a pit latrine after they have manually emptied it. Bangalore, India, August 2019.

WaterAid is an international not-for-profit, determined to make clean water, decent toilets and good hygiene normal for everyone, everywhere within a generation. Only by tackling these three essentials in ways that last can people change their lives for good.

For more information or to arrange interviews please contact WaterAid's global mediateam:

Global/UK:

Emily Pritchard,
EmilyPritchard@wateraid.org

Lisa Martin,
LisaMartin@wateraid.org

Fiona Callister,
FionaCallister@wateraid.org

Australia:

Kevin Hawkins,
Kevin.Hawkins@wateraid.org.au

Canada:

Aneesha Hampton,
AHampton@wateraidcanada.com

India:

Pragya Gupta,
PragyaGupta@wateraid.org

Sweden:

Magdalena Olsson,
Magdalena.Olsson@wateraid.se;

Petter Gustafsson,
Petter.Gustafsson@wateraid.se

USA:

Emily Haile,
EmilyHaile@wateraid.org



WaterAid

WaterAid is a registered charity: Australia: ABN 99 700 687 141. Canada: 119288934 RR0001.

India: U85100DL2010NPL200169. Japan: WaterAid Japan is a specified non-profit corporation (certified NPO corporation) Sweden: Org.nr: 802426-1268, PG: 90 01 62-9, BG: 900-1629. UK: 288701

(England and Wales) and SC039479 (Scotland). US: WaterAid America is a 501(c) (3) non-profit organization.